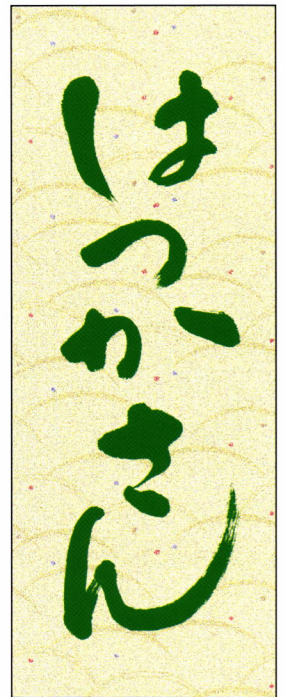




社 殿



第 16 号

発 行

天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会

印 刷

米子ワークホーム



参道入り口の鳥居

法勝寺から米子方面に向かって、峰の坂を上るとカーブのところ「福田正八幡宮入り口」の看板があり、左に入っていくとすぐ石造りの鳥居が見えてきます。

福田正八幡宮の創立年代は不詳ですが、古くからこの地に稲田姫命(稲田の女神)を祀った福田ノ社があったそうです。建久年間(一一九〇年頃)源頼朝公の勧請する八幡宮と合わせて「福田ノ庄

ノ大社、正八幡宮」と称し、福貴幸福の神として、福田庄(現在の福成・境・大袋・下安曇)の地で、五百石の神領と十三の神宮寺を領したといえます。

度重なる戦国の世に、社殿が荒廃したのを、天正十八年(一五九〇年)米子城の城主吉川広家(毛利元就の孫)によって現在の本殿が再建されました。

明治維新後の神仏分離により「福田神社」となり、戦後昭和五十四年再び「福田正八幡宮」と改称されました。

末社に宇賀神社(境)、飛地境内社に春日神社(坂根)、小鷹神社(柏尾)などがあり、旧福田庄の総氏神として、開運、勝運、除厄、家運繁栄の神として多くの尊崇を集めています。

また古事記に登場する国生みの神イザナミが、比婆山(母親山=母塚山)に埋葬されたと言い伝えられています。大正時代までは、母塚山山頂の旧神社敷地にイザナミを祀る社があり、古くより神奈備(神が鎮座する山)として、神祭りの場だったと思われます。現在、イザナミの社は福田神社に合祀されています。



賽の神さん



天津小学校跡にあった常夜灯



あまつのお店紹介

秦酒店

(上阿賀)



秦酒店は、上阿賀の国道沿いにあり、地元の人がよく訪れる酒屋さんです。
 地元では、『よこばたけの酒屋』と呼ばれ親しまれています。今、都会で流行っている、『タチキュー』もできるお店です。
 夕方になると、上阿賀はもちろん原や下阿賀、清水川から酒好きのお客さんが集まり、昨今の話題で盛り上がります。

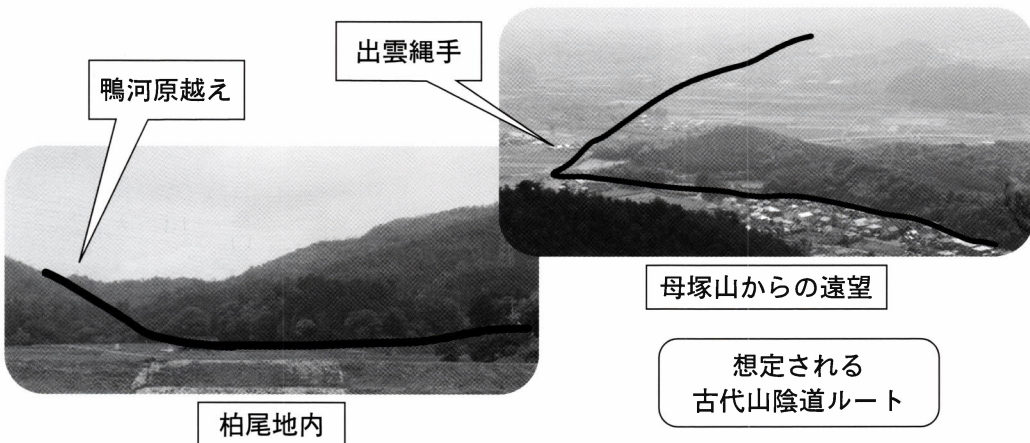
昔は、今よりも多くのお客さんが集まったようです。お店に十六インチくらいの白黒テレビがあった頃は、プロレスの中継などのときには多くのお客があり盛り上がったようです。また、現在の天皇・皇后両陛下の結婚式が中継されたときも多くのお客が一目見ようと訪れ、酒を飲みながらお祝いをされたようです。
 昭和の初めに開店して以来、道路の拡幅により二度お店を立て替えられました。現在の建物になったのは平成十五年の国道の拡幅によるものです。

歴史探訪
 古代山陰道の跡

西暦七百年ごろ、奈良、平安時代の法令により行われた中央集権制度が始まり、都と地方を結ぶ管の道が作られます。古代から中世にかけて都と出雲の国を結んだ官の道、『古代山陰道』は天津を通過していたと思われます。

因幡の国から伯耆の国に入った役人は、伯耆町坂長にあった駅(うまや)で馬を乗り継ぎ出雲の国に入りました。古代山陰道のルートは様々な説がありますが、坂長から一直線に母塚山を目指して境内地に入り、出雲繩手の地名が残る谷川地内から母塚山の麓を柏尾に出て、尾根が低くなる峠を越え出雲の国安田にぬけた説がその一つです。出雲地方では峠を鴨河原越えと呼んでいます。法勝寺川には無数の鴨がいたそうです。国境には関所があり峠を越えた天万郷に手間割があったと文献にあります。
 当時天津は会見郡天万郷地内で

した。関所跡も様々な説があり定かではありませんが、峠を越えた柏尾地内にあったのではと想像します。
 古代史浪漫をいくさり綴ってみました。(野口 隆資)



母塚山からの遠望

想定される古代山陰道ルート

柏尾地内

地域の行事

柏尾の薬師朝市会

柏尾の薬師さん（薬師如来）は、戦国時代に戦禍の及ぶ事のない様に建立されたと言い伝えられています。

長い間、放置状態が続いていたこの薬師さんを、地域の誇れる文化財として守るために、会員を募集して平成十一年七月吉日、朝市準備会が発足しました。薬師如来の本願とされる「健康で長寿」を願う朝市を開き、区民の寄所と活性化に取り組んでいます。

朝市開催日は、毎月第一・第三の日曜日の八時頃から九時頃まで、野菜・たこ焼き・大判焼きなどを女性会の尽力により販売しています。

年一回秋の例大祭には、高齢者が招待され、住職による法要、法話、フリーマーケットが開かれ、おはぎなどによる接待をしています。（大塚 賢一）



例大祭の様子



野菜の販売もあります



竪穴住居跡
4回の建て替えが行われている。

山陰最大級の墓地
（さかいやいしいせき）
境矢石遺跡

国道180号バイパス建設に伴い、平成二十二年四月二十一日から開始した境矢石遺跡の発掘調査が約二年をかけた約一万八千平方メートルを調査し、平成二十四年三月末で終了しました。

境矢石遺跡は、縄文時代から近世にかけて営まれた遺跡であることが分かり、主な遺構としては弥生時代前期から中期の木棺墓群と弥生時代後期から奈良時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、



木棺墓
長さ2メートル、幅0.8メートルの石囲いを持つ墓

段状遺構、土坑など総数約三百五十基です。

注目されるのは、弥生時代前期から中期（二二〇〇～二〇〇〇年前）の木棺墓跡計百基が確認されたことです。長瀬高浜遺跡（東伯郡湯梨浜町）の九十八基を上回り、県内最多で、同時代の集団埋葬施設としては山陰最大級ということになります。周囲に大規模な集落があった可能性が高いと考えられます。山陰地方では弥生時代前期から中期の墓の調査例自体が少ないので、弥生時代の生活様式や葬送のやり方を知る上で貴重な発見です。

（渡邊 悦朗）

郷里に戻って

大塚 賢一 (清水川)

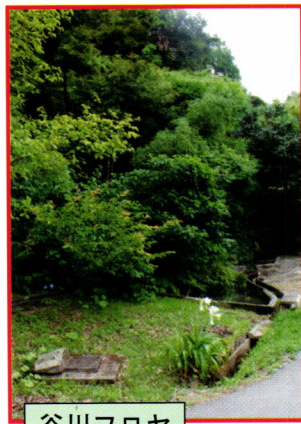
金田川に乱舞するホタルを見て、地域の方が何年も前から周辺の環境整備や、餌となるカワニナ確保のために汗を流しておられることを聞き、小さな募金箱に心ばかりの協力をさせて頂いた。

関西方面から二十二年ぶりに郷里に戻って、遅ればせながら地域の活動に顔を出させていただけているが、ホタルをはじめいかに郷里が自然に恵まれているか、県外に出て初めて分かったことである。京都市内の公園でホタルを見たという情報に、一晩に何百人という人が詰め掛けたが、数匹のみが恥ずかしそうに飛んでいるのを見た。谷川橋のもとでは例年何十匹も見かけるそうである。関西での深夜のけたたましいパトカーや救急車のサイレンの音に代わり、郷里では近くのため池でカエルの大合唱、池の淵には数えきれない程のオタマジャクシとアメリカザリガニ、草むらからひょっこりと顔を出すへび、子ども時代に帰ることができる。そんな郷里が大好きである。

交流センター周辺のホタルマップ



福田正八幡宮



谷川フロヤ



谷川下がり

編集後記

古事記編さん一三〇〇年の今年、故郷の神話が大きく取り上げられ催しも多く行われます。

これを機会に故郷の歴史を垣間見るのもいいものです。天津は天の港で神々がおりてこられた地だと古老に聞きました。神話の原点は天津にありと思います。広報スタッフも新たになり、本年度は地域の神社や歴史、情報等を伝えてまいります。この一年宜しくお願いします。

(野口隆資)

平成二十四年度 広報編集委員紹介

- 野口 隆資 (谷川)
- 大塚 賢一 (清水川)
- 渡邊 悦朗 (上阿賀)
- 隅田 将寛 (坂根)